

1 民間の住宅・商店等の景観づくり

ここでは、町内全域を対象として、町民の皆さんが住宅や商店・工場などを建築する際に、景観に配慮していただくべき事項について指針を示しています。一人でできることもありますし、ご近所や地区の方々と話し合っ、より広い範囲で取り組むことで効果が発揮されるようなアイデアもあります。「美しいまち」の実現のため、皆さんのご協力をお願いします。

(1) 建築物

1) 勾配屋根を設けるようにしましょう

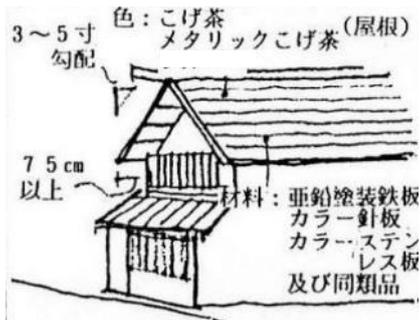
- 大槌町には元々高い建物はほとんどなく平屋や2階建ての屋根のある建物のまち並みでした。新しく建設する住宅においても、かつての景観の再生を図るために、勾配屋根の住宅としましょう。また、山に囲まれた地域なので水平線の陸屋根よりも勾配屋根の方が調和しやすいと考えられます。
- 大槌町の町中は切り妻屋根の町屋が主流でした。また、大槌川、小槌川の上流の農村集落では寄せ棟も多く見られます。地域の風土になじむ屋根の形を考えましょう。
- 特に上から見下ろされる機会の多い場所や、国道から良く見える場所、歩行者の多い場所などは屋根の景観について配慮すると効果があるでしょう。
- 色彩や勾配をある範囲で揃えると統一感のある美しいまち並みとすることができます。
- 太陽光パネルなどを屋根にのせるときは、できるだけ屋根の色に近く目立ちにくいものにしましょう。また、近隣に光が反射しないようにしましょう。



切り妻の屋根の町屋（末広町商店街）



入母屋屋根の農家
（長井集落）



切り妻屋根を標準とした指針の例
出典：街並み景観形成基準
(山形県金山町)

2) できるだけ地場産材や白壁などの自然素材を使いましょう

- 山、川、海といった大槌の自然とよく調和するように県産材の木材やしっくい、土壁などの自然素材を使いましょう。
- また外壁のデザインや色をある範囲で揃えることで、統一感のある美しいまち並みとしましょう。
- 地域の自然素材を用いることで自然と統一感のある町並みが形成されます。また、自然素材は純色や光沢のある素材はあまりないため互いに調和がしやすいです。さらに自然素材は年月と共に風合いを増す素材が多いので景観形成に効果的です。
- 木材の梁や柱を見せて壁を区切るようにして、大きくて単調な壁面が出ることを避けましょう。



地場産材の活用と壁面デザイン
(大ケロ災害公営住宅)



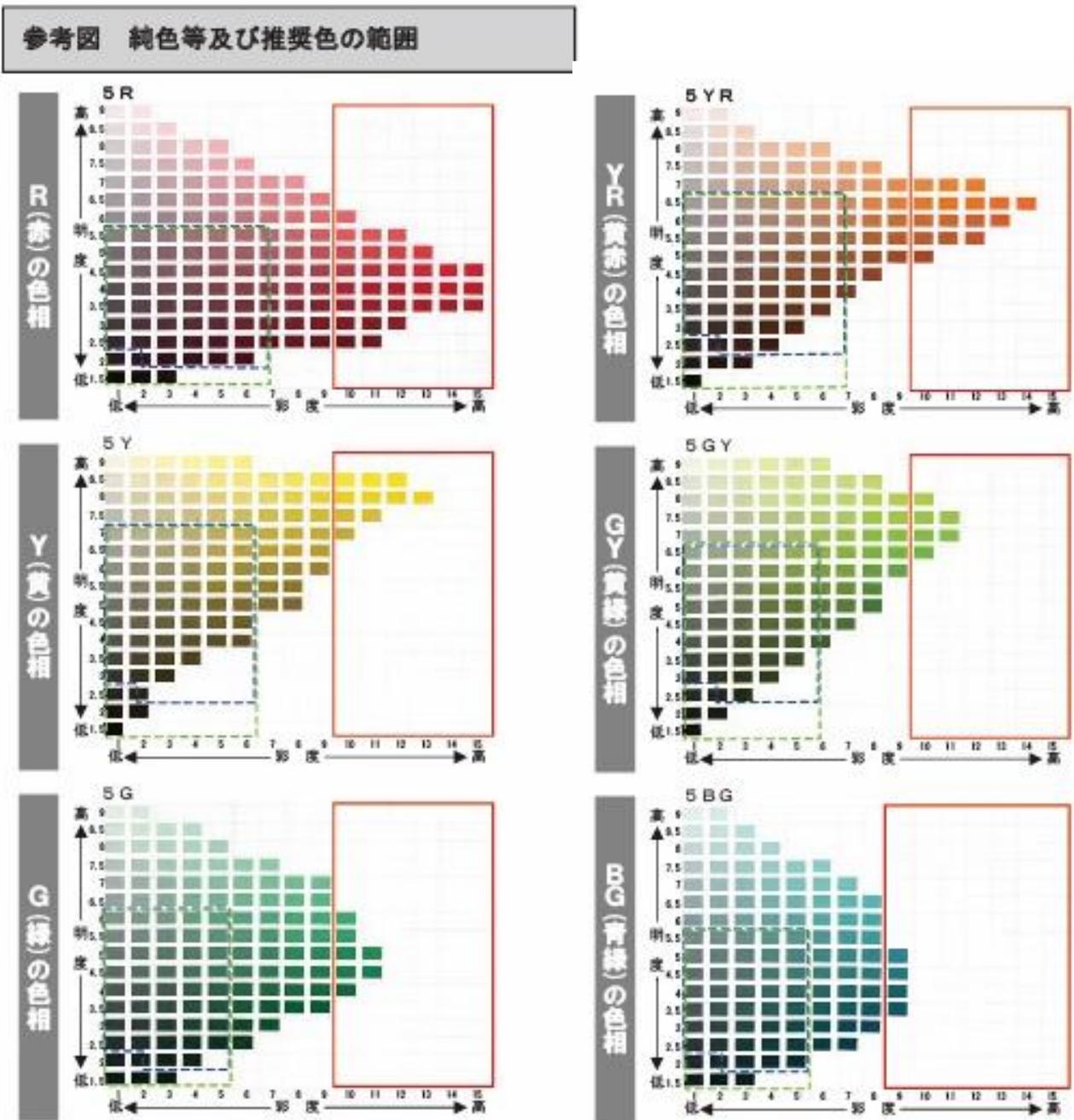
アースカラーの壁面へ木材で格子状にデザイン
(岩手県遠野市)

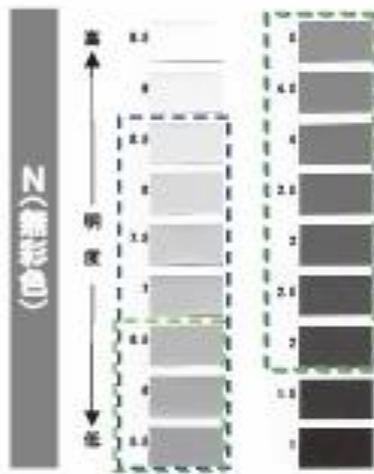
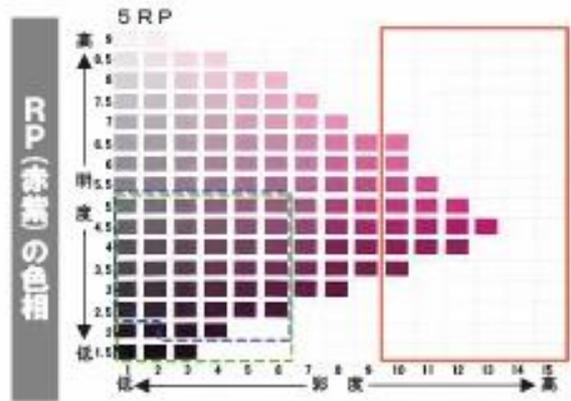
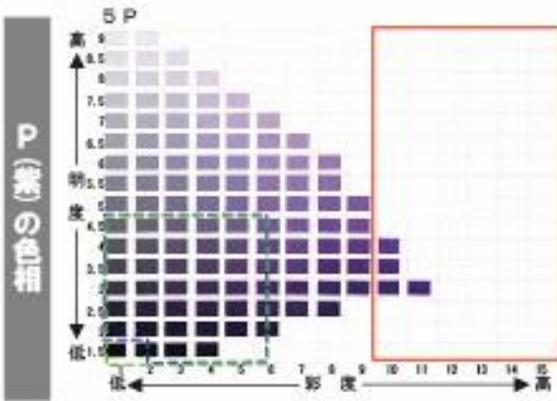
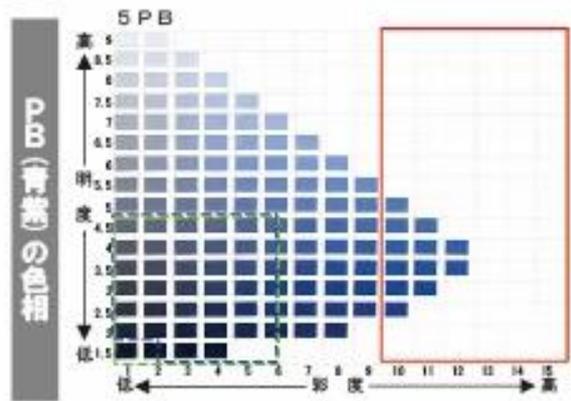
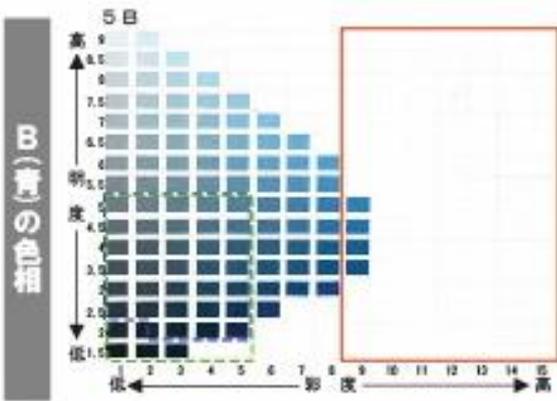
3) 屋根や壁の色は落ち着いた色調にしましょう

- 屋根及び外壁等は、純色等は用いず、原則として推奨色を用いる等、周辺景観と調和するよう努めましょう。また、屋根及び外壁等は、周辺の建築物等と同様の色調の色を用いる等、周辺景観と調和するよう努めましょう。
- 純色は目立ちやすく周囲の景観と調和しにくく、また複数の純色を屋根や外壁に用いる場合はさらに調和が難しくなります。
- 明度 1.5~6.5、彩度 1~7 程度の範囲を推奨します (岩手県基準)。
- やむを得ず純色等を用いる場合は、屋根及び外壁等の見付面積の 25%以内にしましょう。

- なお、岩手県景観計画においては、法に基づく景観形成基準が設けられており、一定の規模の建築物を新築する場合に屋根や壁面の色彩などに行為の制限を受けます。詳細については岩手県景観計画をご参照下さい。

〔参考図〕 純色および推奨色の範囲〔岩手県景観計画〕





 外壁の推奨色の範囲 純色等の範囲
 屋根の推奨色の範囲

4) おもてなしの表現をしましょう

- 住宅でもお店でも、おもてなしの表現をしましょう。暮らしている人も、来訪者も歓迎されていることが視覚的に伝われば暖かな気持ちになり、居心地の良い町だと感じるでしょう。
- おもてなしの表現は人間がまちを評価するときに最も重要な基準の一つともいわれます。自分がもてなされている、人間が車より優先されているなどと視覚的に感じられることが重要です。
- おもてなしの表現として、伝統的なものならば門に松の枝をかぶせる「門冠りの松」などがあります。現代のお店ならばのれんやベンチを置いたり、お店ではなくても、花を家の前に飾ったり、開放的な雰囲気にするでおもてなしの表現ができるでしょう。
- 広告物や張り紙がすきまなく貼られていて、中の様子がわからなかったり、高い壁に囲まれて中が全く見えなかったりする住宅は周囲を拒絶する冷たい印象を与えるでしょう。



ベンチは利用されなくても歓迎の表現になる
(長野県小布施町)



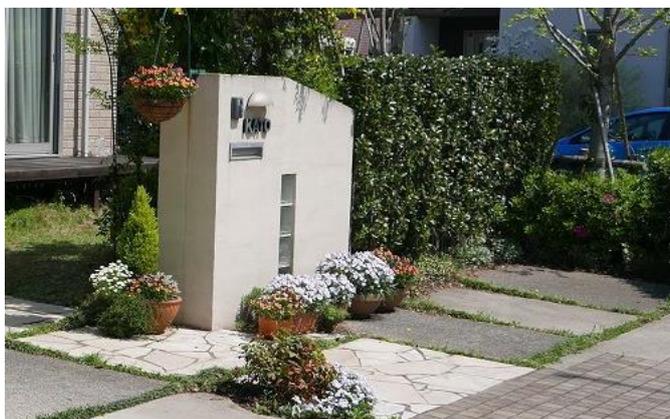
花で道路付属物を飾っている商店街
(長野県長野市)



ベンチとのれんのある町並み
(長野県小布施町)



住宅団地の一面に植栽とセットで置かれたベンチ
(長野県小布施町)



門周りの花鉢は典型的な歓迎の表現
(茨城県つくば市)



植栽で飾られた前庭
(茨城県つくば市)

5) 建築物のデザインにルールをつくり地域でまち並みをつくりましょう

- 地域の皆さんで話し合って、まち並みをつくることに一定の方が賛成をしたら、自分たちでルールをつくることができます。
- 地域で話し合って屋根や壁の素材を近所の人となるべく揃えてみたり、柵や塀を極力低くしたり、つけないようにしたりするなど、ルールを決めることで魅力的な町並みの形成を図ることができます。また、そのような取り組みが目に見えることや、地域が一緒になってまちづくりをしていることで、コミュニティが良好であると感じることができます。
- 建築協定（※1）を締結したり、地区計画（※2）と条例を連携させたりすることも考えられます。



町並みに関する条例を制定後のまち並み景観（山形県金山町）



家の囲いを統一して生垣にしている住宅地（茨城県つくば市）

※1 建築協定：建築物の敷地、位置、構造、用途、意匠あるいは緑化の方法などについての協定を住民自身が行い、建築基準法で定める内容より高い水準で基準を取り決めることのできる制度。

※2 地区計画：都市計画法に定められている、住民の合意に基づいて、それぞれの地区の特性にふさわしいまちづくりを誘導するための計画。

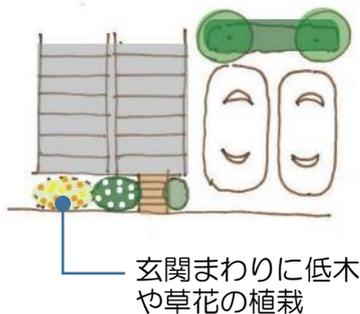
(2) 緑化

1) 緑豊かなまち並みをつくりましょう

- 思わず散歩したくなるまちにするために、通りを公園のように緑化して、四季の花や紅葉を楽しめるようにしましょう。また緑化することによって木陰が形成されて、日差しの強い日でも散歩したくなるまちになるでしょう。
- 通り沿いに、少し緑のスペースをとったり、前庭をとったりして、豊かな緑の空間をつくりましょう。地域で話し合いながらまち並みをつくっていくことで、緑が豊かで魅力的なまち並みをつくることできるでしょう。敷地に応じてできる範囲で、少しでも緑化に取り組んでいただくことが町並み形成にとっても大切です。
- 通り沿いに美しい庭を設け、それを公開してオープンガーデンとして地域の人に楽しんでもらうことも考えられます。園芸サークルをつくって、腕を競うのも良いでしょう。

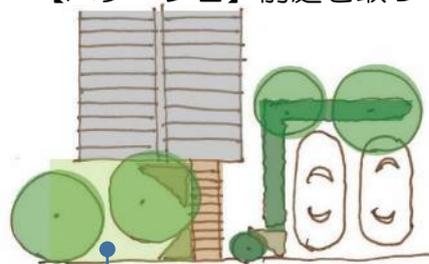
〔通りに沿った緑化のパターン〕

【パターン1】玄関まわりなどの植栽



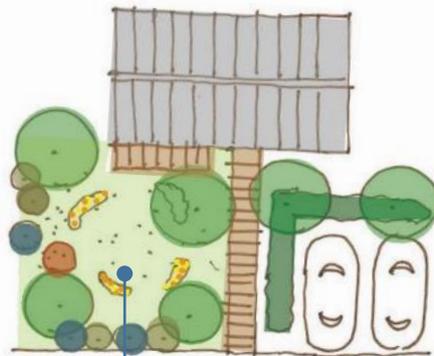
玄関まわりに低木
や草花の植栽

【パターン2】前庭を取って植栽



住宅の位置を通りから少し離して前庭のスペースを取り樹木や草花を植栽

【パターン3】通り沿いに庭を取って植栽



庭を通り沿いに設けて、オープンガーデンなどとして公開

【パターン1の事例】玄関まわりなどの植栽



玄関周りの花鉢（長野県須坂市）



玄関周りの花鉢（長野県小布施町）



玄関周りの花鉢（茨城県つくば市）



玄関周りの草花（茨城県つくば市）



アジサイによるまちかどの緑化（岩手県遠野市）



草花による敷地境界部の緑化（長野県小布施町）

【パターン2の事例】前庭を取って植栽



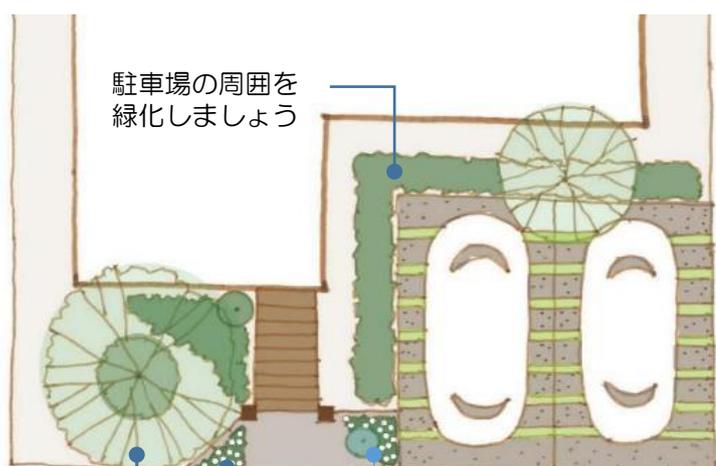
通りに面して前庭を取っている住宅（茨城県つくば市）



緑に囲まれた駐車場（茨城県つくば市）



駐車場を斜めにして植栽スペースを確保（茨城県つくば市）



駐車場の周囲を
緑化しましょう

玄関を少しセット
バックした植栽

住宅を少しセットバックし
シンボルツリーなどを植栽



間口の狭い区画(10mの場合)の前庭の取り方の例

【パターン3の事例】通り沿いに庭を取って植栽



通りの側のオープンな庭（岩手県遠野市）

〔オープンガーデンの例〕



山野草を活かしたオープンガーデン
（長野県須坂市）



和風庭園のオープンガーデン（長野県須坂町）



大槌町のオープンガーデン（浪板）



大槌町のオープンガーデン（同左）

2) みんなでシンボルツリーや地域らしい草花を植えましょう

- 玄関周りの植栽できるスペースや、通り沿いの前庭に、シンボルツリーを植えたり、大槌町らしい植物を植えたりして個性的で魅力ある通りにしましょう。そうすることで新しい花の名所が生まれて、町外の人にとっても訪れたい魅力あるまちづくりにつながります。
- 地域で協力して苗ほをつくり、趣味の活動として苗を増やす取り組みをすると、より一層緑化や園芸の楽しみが増すでしょう。



大槌で自生するハマギク



新山はレンゲツツジの名所



町の木のケヤキ（蕨打直の一里塚）



サトザクラを通りのシンボルツリーとして植えている住宅地（茨城県つくば市）



モミジを通りのシンボルツリーとして植えている住宅地（茨城県つくば市）



ハナミズキを通りのシンボルツリーとして植えている住宅地（茨城県つくば市）

(3) 塀や柵

1) 塀や柵を設けず隣地とコミュニケーションをとりましょう

- 通りや隣家に対して柵を設けず、隣地とのコミュニケーションをとりやすくしましょう。またオープンな住宅にして、人の目が届き、高齢者の見守りにもつながる安全、安心なまちにしましょう。
- 塀や柵はその地域の近隣関係や地域関係をそのまま表現するものです。大槌ではこれまで、あまり塀や柵を設けない家屋が多くコミュニティの暖かさを観じられる町並みになっています。さらにオープンな家屋や低い垣根は歓迎表現にもなります。
- また隣近所で話合っ、協力して垣根や柵を設置することで費用を少なく、良いものをつくることも考えられるでしょう。



通りに対してオープンな住宅（左：小澗 右：金澤）

2) 柵や塀を設ける場合は生垣や板塀などの自然素材にしましょう

- 柵を設ける場合は、生垣や板塀や竹垣あるいは石などの自然素材を使うようにしましょう。地域の自然素材を使うことは、屋根や外壁と同様に地域に調和した町並みの形成につながります。
- コンクリート、金属等を用いる場合は目立たない色彩とし、植栽で隠すなどの配慮をしましょう。
- ブロック塀は地震で倒れる恐れがあるので使用しないようにしましょう。



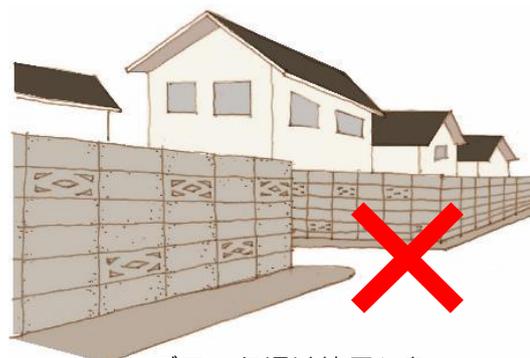
生垣（茨城県つくば市）



板塀（岩手県遠野市）



竹垣（長野県須坂市）



ブロック塀は使用しない

(4) 照明

1) 玄関先に最小限の灯りをともしましょう

- 街灯が少ないため夜は暗くなってしまいます。最近では消費電力の安いLEDなどの照明もあるので、玄関先に灯りをとますようにして、町の安心・安全を高めましょう。

2) 過剰な光が周囲に散乱しないよう努めましょう

- 屋外照明を設置する場合は、光源の種類、位置、光量及び配光特性に配慮し、点滅する照明は使わないようにしましょう。
- 美しい星空が見えるように、最小限の照明にしましょう。

(5) 広告物

1) 看板やサインなどの広告物は控えめでスッキリしたデザインにしましょう

- 派手な色彩や大きすぎる看板は自然豊かなまちの中では調和しにくいものとなります。
- 広告・看板類は極力大きさを抑え、スッキリとしたデザインとしましょう。
- 壁面に大きな文字を書くのは避けましょう。
- 大きな屋上看板、横断幕、ポールサインなどは避けて、建築物と一体となった袖看板、壁面サインなどを使用すると良いでしょう。
- 自立サイン、スタンドサインなどは町のにぎわいづくりにつながるよう適切に活用しましょう。
- 注意書きなどの掲出は極力減らすようにしましょう。
- 自家用以外の野立看板は使わないようにしましょう。

2) 目立ちすぎる看板やサインは使用しないようにしましょう

- 強い自己主張は時として人に不快感を与えることがあります。
- ネオンサイン、動画や点滅表示を用いた屋外広告物は使わないようにしましょう。(電光掲示板、LEDビジョンなど)
- レーザー光は使わないようにしましょう。



(6) まちかど・路地

6-1 コミュニティの場づくり

1) 通りに面してベンチやイスを置いて休憩できる場所をつくりましょう

- 散歩して楽しいまちにするために、通り沿いに座って休憩できる場所を設けましょう。ベンチは置いてあるだけで歓迎表現になり、居心地の良さの表象となります。
- 通りに沿って個人でベンチを置いてもらったり、公園の通りに面した場所にあずまややベンチを置いたりする方法などが考えられます。
- ただ単にベンチを置くだけでなく、人の居心地を配慮して、木陰に配置したり、花や緑で美しく飾ったりするなどして質の高い休憩空間となるようにしましょう。



商店の軒下にベンチを置く（遠野市）



軒下のベンチ（愛媛県内子町）



てづくりのベンチ（ニコニコ広場：浪板）



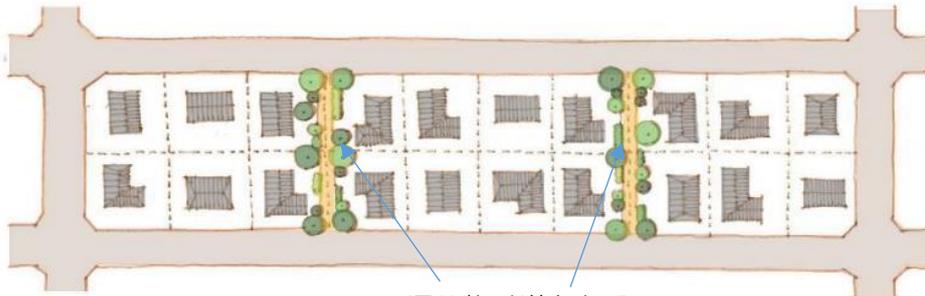
日陰を提供する休憩スペース
（長野県小布施町）



ポケットスペースにおかれた緑や花に囲まれた質の高いベンチ（茨城県つくば市）

2) 少しずつ土地を出し合ってコモンスペースとなる通り抜け道をつくりましょう

- 区画整理などで直線的で見通しの良い車道が多くなるため、車の入れない入り組んだ路地のように歩いて楽しい要素が少なくなってしまいます。また、1辺の長さが100m以上になるような街区では、回り道を強いられる場合も多くなり、避難の面からも不利になります。
- 避難にも便利で、車の入らない通り抜け道を、隣近所で1m幅程度を融通し合ってコモンスペース(※)として設け、花壇づくりをしたり、バーベキューをしたりすれば、コミュニティを育む場にもなります。



通り抜け道となる
コモンスペース



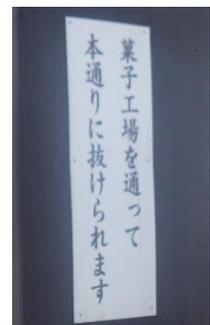
通り抜け道となる
コモンスペース



歩行者専用通路（茨城県つくば市）



宿泊施設や喫茶店などを通過する通り抜け道（長野県小布施町）



いろんな所に「通り抜け可」の看板がある（長野県小布施町）

(※) コモンスペース：共用の庭や道。ここでは私有地を出し合っつくることを想定している。

3) 通りから見える位置に縁側をつくってお茶っこをしましょう

- 通りから見える場所に縁側やテラスを配置して、通りかかった友人や知人を我が家に招き入れてお茶っこができるようにしましょう。隣近所のコミュニケーションの場になり、高齢者の見守りや避難時の呼びかけのしやすさにもつながります。



通りに面して縁側のある住宅（愛媛県内子町）



通りに面してテラスのある住宅（茨城県つくば市）

4) まちかどに井戸端会議の場を設けましょう

- 昔は共同の井戸の回りでおしゃべりをするのが普通でした。大槌町には湧水や井戸が残されており、また公園や広場の中で復元する計画もあるので、そのまわりに座って話ができる場を設け日常的にコミュニケーションを図ることのできるまちにしましょう。
- また、顔を合わせる機会の多いゴミステーションは現代の井戸端会議の場となります。公園に併設して周囲をきれいにして。話がしやすい雰囲気をつくるのも良いでしょう。



震災前の水舟（安渡）



ゴミステーションのイメージ
出典：大槌町災害公営住宅設計ガイドライン

5) バス停はベンチと屋根がある空間にしましょう

- バス停は子どもや学生、お年寄りが日常的に利用するので、風雨を避け、座ることができ、照明のある安全で居心地の良い場所にしましょう。

バス停に風雨を避ける
屋根とベンチを整備
（岩手県釜石市）



6-2 大槌町の魅力の表現

1) まちかどで町の自慢の品を見せましょう

- 個人が所有しているコレクション、漁業の町らしい道具やモノ、お店の歴史や製品あるいは技術の紹介など、通りがかった人が興味を持つような仕掛けをまちの中にたくさんつくっていくと町の個性が活かされます。
- また、各家に残されている古くからの屋号を統一した看板で掲示しても地域らしいユニークな取り組みとなるでしょう。



庭や門前の装飾品となる漁具
(浮き玉)



漁師町のシンボルである
大漁旗



郷土芸能の道具の展示



全国に誇ることのできる郷土芸能・祭りの様子を知ることができるような写真などの展示

2) まちの名物をPRしましょう

- 大槌町産の海産物を加工する風景を積極的に見せましょう。まちの名物や名物が日常風景に溶け込んでいる風景はまちを訪れる人にとってとても魅力的であり、関心が高いものです。まちを訪れる動機になるものなのでしっかりアピールをしましょう。



商店の軒先につるされた新巻鮭（岩手県釜石市）



通りに面して陳列棚を設けている酒屋（福島県白河市）

3) 行事やイベントでまちかどや通りを飾りにぎわいをつくりましょう

- 季節の行事やイベントで通りを飾り、季節を感じるまち並み景観を演出しましょう。季節に応じて変化があり、様々な楽しみがあることはまちの大きな魅力となります。



歴史を題材にしたパレード大槌時代絵巻（大槌町）



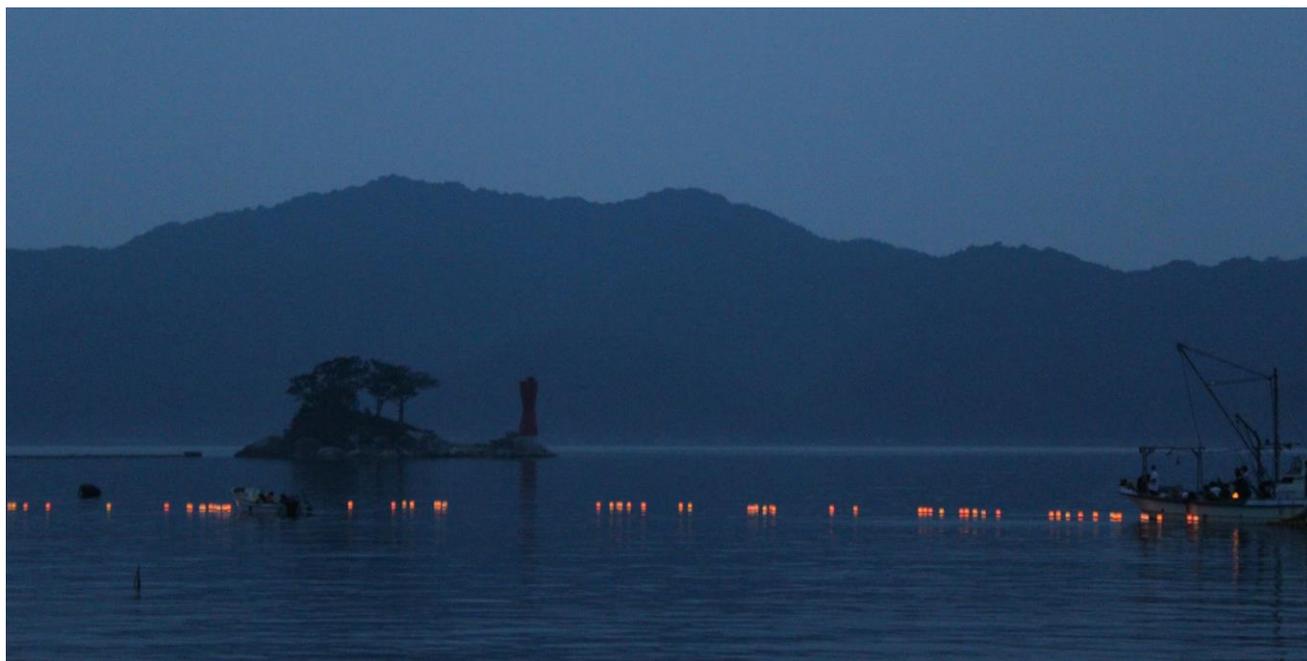
通りから見えるひな飾り
（引田ひな祭り：東かがわ市）



lanterns (Takayama Mimoshi Lantern Festival: Tokyo, Nishi-ku)



旗や提灯で飾られる小鎚神社参道



lanterns (Akahama)